

NO！リニア

No. 107

2019年4月8日

JR東海労働組合

桜エビ不漁の原因は、リニア工事なのか？！

静岡市由比の桜エビの不漁が続く中、川勝平太静岡県知事は4月1日、指摘されている山梨県早川水系の濁りの調査を指示しました。そして、調査協力依頼を山梨県にも伝え、長崎幸太郎山梨県知事はこれを了承しました。難波喬司静岡県副知事による早川流域の視察によると、「早川上流のリニア工事で、濁りをなくすため凝集剤を使っている」との報告がされています。他方、早川にかかる雨畑ダムの堆積も指摘されていますが、ダムは1967年に完成しています。

桜エビの記録的な不漁に見舞われたのは、2018年の春漁からです。2019年春漁も中止となっています（3期連続）。桜エビ漁は、3月中旬～6月初旬の春漁と、10月下旬～12月下旬の秋漁の年2回です。桜エビの産卵期となる6月中旬～9月下旬は、禁漁期間です。桜エビはふ化してから10～12ヶ月で大人に成長します。

一方、リニア中央新幹線山梨工区（早川町）の工事は、2017年7月から「先進坑」の掘削が始まり、2018年3月14日から南アルプストンネル本体の掘削が始まりました。早川中流部には、リニアのトンネル残土置き場が河川敷に数ヶ所あります。

リニアの工事が始まる時期と、桜エビの記録的な不漁の時期がちょうど一致するのは、単なる偶然なのでしょうか？ それとも必然なのでしょうか？ もし、桜エビ不漁の原因がリニア工事だとすると大変な事態です。一企業が多くの漁民の生活を破壊する権利はありません。一刻も早い原因究明を望みます。

桜エビ漁とリニア工事のタイムライン

